

特殊單級小學校教育法調查書





朝鮮總督府圖書	部門號	Ⅷ
	番號	710
	冊數	1

3290

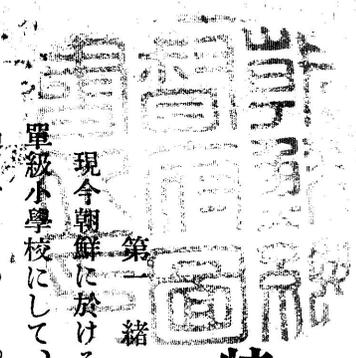
朝鮮公立小學校中ニハ兒童數僅少ナル單級編制ノ學校頗ル多ク教育上特殊ノ注意ヲ要スルモノアルヲ以テ曩ニ調査委員ヲ設ケ之カ教育方法ヲ研究セシメタルニ付茲ニ其ノ報告書ヲ印刷ニ附シ諸學校ニ配布シテ執務ノ參考ニ資ス

大正四年五月六日

朝鮮總督府



PL



特殊單級小學校教育法

第一 緒言

現今朝鮮に於ける公立小學校二百八十六校中百八十二校は單級小學校にして、其の多くは二十名以下の児童を有するに過ぎざるものなり。而して是等の學校に於ける教育法は、多級小學校は勿論、通常の單級小學校の方法にすら則り難き事情多きに拘らず、概して從來一般の方法に拘はり、其の成績の遺憾なるもの尠からず、是を以て單級小學校教育法に關し既に研究せられたるところを適當に應用し進んで未だ闡明せられざる方面を開拓し以て此の種特殊單級小學校の特色を發揮するは朝鮮に於ける小學校教育進歩の爲めに目下の急務なりとす。

抑も此種特殊單級小學校の特色と云ふべきは、児童學力の差甚しと雖、児童數尠きが故に、學年數多きに拘らず、巧に其の學力に應じたる教授を行ひ得ると同時に、最も個性に適したる薰陶を行ひ得ること、遙に他の小學校に優るにあり。加ふるに學校の狀況甚だ家庭に近く、其の訓育の結果は直に家庭に移して行ふべきもの特に多かるべきが故に、學校生活

と家庭生活と背馳するが如きこと尠し。而も規律、秩序、協同、分勞、同情等の社會的感情と習慣とを養ふの機會は、遙に家庭に過ぐるものあるが故に、苟も其の方法宜しきを得たらむには、合同教育と個別教育との長所を兼ねて教育の目的を達せむこと、蓋し理想的なるものあらむ。

殊に朝鮮に於て斯る小規模の學校たるに拘はらず、多額の費用を投じて吝まざるは、他に見るべからざることにして、如何に僻陬に於ける内地人児童の教育を重要視して力を盡すの厚きかを示すものなれば、是等の學校に奉職するものは、克く此の意を體し、自任自重其の職務に盡し、以て國家の所期に副ふの覺悟あらむことを要す。

第二 一般教育方針

小學校教育の目的は、其の編制の如何によりて變ずべきにあらざれども、其の方法に至りては自ら異ならざるべからず。今特殊單級小學校に於ける教育實施上の方針に關し特に注意すべきものを擧ぐれば左の如し。

一 児童の年齢學力性質等の差著しきものあれども、其の數

朝鮮總督府保

朝
11
82

尠きが故に、從來の學級教育の形式に拘泥することなく、合同教育の長所と個別教育の利點とを併せ得むことを期すべし。

一 兒童少數なるが故に、努めて家庭的に教育し、兒童心身の發達を阻害するが如きことなからしむると共に、長幼相俱に學習嬉戲することによりて親和同情を敦うし、協同規律の習慣を養はむことを努むべし。

一 此の種學校の所在地は、概ね僻陬の土地にして、輕佻浮薄の風習尠き所なれば、努めて素樸敦厚の性情を養ひ、剛健質實の氣風を長せしめんことを期すべし。

一 各科の教授は各學年相當の教科課程に據るべきは固よりなれども、常に各兒童の能力に應じて其の進度を斟酌し、特に優秀又は劣等なる兒童には學年の如何に拘らず、適當に其の程度を斟酌教授すべし。

一 教授は最も簡易直截なる方法にて之を行ひ、各教科目の要點を確實に會得せしめむことを努むべし。

一 兒童自學の習慣を確立し、直接教授との配合に留意して學習の徹底を期すべし。

一 長幼一堂に學習するを利用し、年長者をして年少者を輔導せしめ、以て相互研究の習慣を養成し、且學習に對する興味を鼓舞せむことに努むべし。

一 學校日常の用務中兒童の爲し得るものは、努めて兒童をして之を處辨せしめ、以て協同分勞の氣風と勤儉力行の習

慣とを助成せむことを期すべし。

第三 兒童の組別

一 兒童の組別は大體學年を本位とすと雖、又兒童の學力教科目の性質等によりて、便宜其の組數を増減するものとす。

一 修身は其の一部を以て修身教科書の講讀及び之に隨伴する訓話等に充て、之を學年本位の組別とし、他の一部は全兒童を一組又は二組とし合同訓話を施すものとす。

一 讀方算術は小學校教育に於ける基本知識なれば、各學年を以て一組とし、兒童の學力に最も能く適當する教授を行はむことを要す。

一 綴方、書方、圖畫、手工、裁縫は自動作業に屬せしむべき部分も少からず、且其の教授の前後に於ける教師の力を要すべき事柄も組數の多少に關すること少きものなれば、便宜組數を定め、努めて兒童の學力相當のものを課し、兒童の特技特能を發揮せしむるを要す。

一 日本歴史、地理、理科は五六學年を合同して一組とし、教科書を交互に轉換して教授するも差支なし。

一 體操、唱歌は兒童の身體の發育及技能の進度に鑑み、必ずしも學年別となすことなく、可成其の組數を少くして教授するを可とす。

一 各科教授組別の例左の如し。

修身 一組乃至六組
讀方算術 六組

日本歴史地理理科

唱歌 體操

書方綴方圖畫手工

裁縫

一組乃至二組

一組乃至三組

六組(便宜之を)

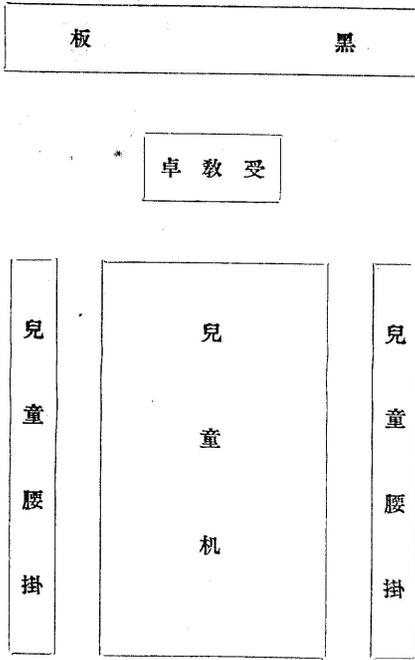
四組(便宜之を)

第四 兒童の排列

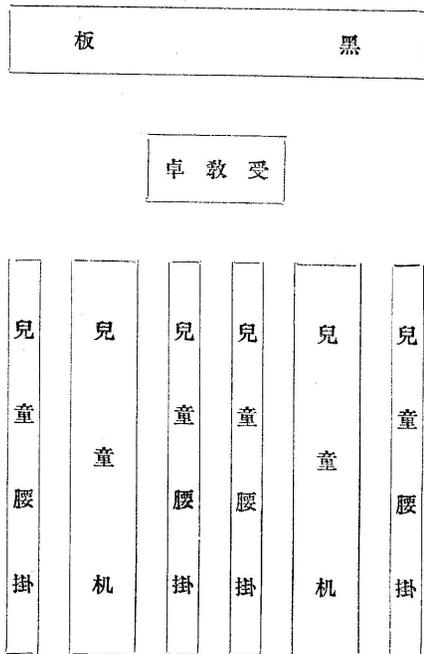
一 兒童の排列は對面式を可とす。

一 兒童坐席の排列は教室の狀況、兒童の多少及び組數の如何等によりて、長方形排列、並行排列、群團排列又は是等の様式を折衷して適宜之を定むべし。

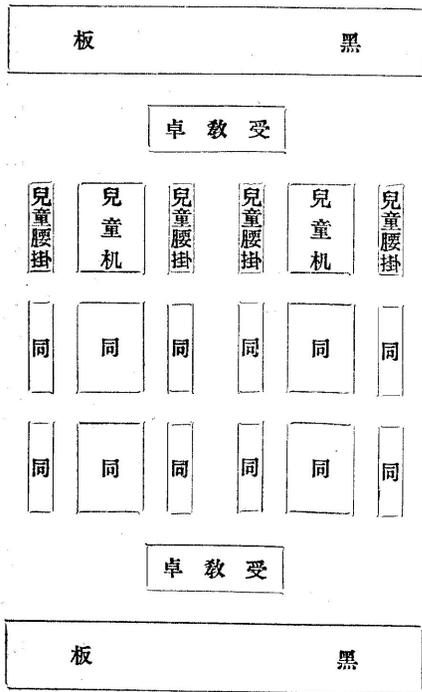
(イ)長方形排列



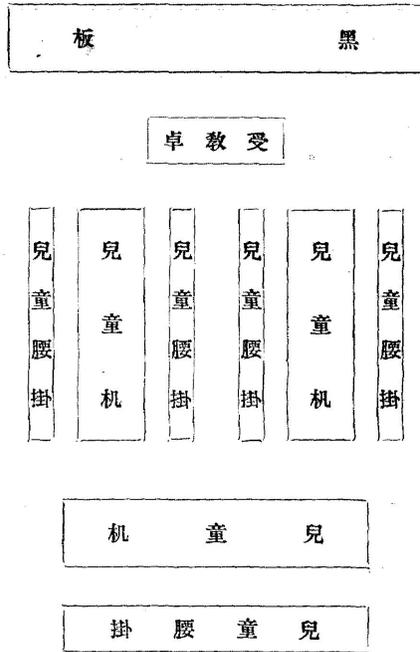
(ロ)二列並行排列



(ハ)群團排列



(ニ) 四字形排列



注意

児童用机及び腰掛は之を大形のものとするも、或は小形のものをも本圖の如く寄せ合すも可なり。

受教卓は黒板の前に置き必要に應じて児童を其の前に集めて教授する用に供す。

受教卓の外別に教師用卓子は設けざるものとす。

一 児童の坐席は一定し置くを本體とし、教科目によりては便宜之を變更し、或は受教卓の前に呼び出して教授するものとす。

第五 教科目の組合

一 教科目の組合は大體に於て一定し置くも、適宜變更して時間と努力とを徒費せざらんことを要す。

一 教科目の組合は同時同科目同教材、同時同科目異教材、

同時異科目の三種を音聲の要否、教授の準備及び後始末の多少等により適宜に採用すべし。

一 教科目組合の都合上、或る時間に於ては某教科目は全く之を自習とするも可なり。然れども其の自習時間は該教科目の規定教授時間以外とすべし。

一 教科目組合せ方の種類大凡左の如し。

全校を通じて同時同科目同教材の組合をなし得べき教科目

修身、日本歴史、地理、理科、唱歌、體操

全校を通じて同時同科目異教材の組合をなし得べき教科目

修身、國語、算術、圖畫、手工、唱歌、體操、裁縫

各學科

第六 時間割

一 時間割は大體一定し置くべしと雖も、児童の成績に鑑みて便宜變更するも差支なし。

一 始業終業の時刻は児童通學の便否を考へて大體之を定め尙ほ遠路通學者又は汽車通學者の如き時間の自由を缺くものの爲には、特別の伸縮長短をなすを可とす。

一 一教科目の一週教授時數は大體一般的に定め置くべしと雖も常に各児童の學力に考へ、其の所長學科の教授時數を減じ、其の短とする學科の教授時數を増して可なり。

一 授業時限は各組必しも一定するを要せず、學年の高下教材の難易等により便宜伸縮して可なり。

一 時間割の一例(第一表參看)

第七 教授細目

一 教授細目は教材配當表を作り、猶ほ教科書の餘白に各課の教材に關して參考とすべき事項、附加すべき教材、應用練習せしむべき事項、説明問答上の注意等を記入し、之を以て其の代用となすも可なり。

一 教材配當表は先づ教材を各學期に配當し、更に之を各週に配當するものとす。

一 教材配當表には其の實施の結果を記入し、必要なる訂正を加ふべし(第二表參看)

第八 教授案

一 教師は教授案若くは毎時教授豫定表なくして教授に著手すべからず。

一 教授案は毎時教授豫定表を以て之に代ふるも可なり。

一 毎時教授豫定表は教材の週配當により、又兒童日日の進度に照らして、毎時に於ける教授の進程、教科目の組合、直接教授と自動作業の配合等を豫定し、之を兒童にも示し、教授事項、分量等を豫知せしめて、其の學習の參考となさしむべし(第三表乃至第六表參看)

第九 直接教授

一 特殊單級教授に於ては、直接教授を行ふ時間比較的短ければ、特に留意して出來得る限り之を有効にし、最少の時間を以て最多の効果を收めんことを期すべし。

一 教材は特に注意して選擇し、其の要點を逸せざらむこと

を努むべし。

一 教授は一時に多項に亙らざる様注意し、教ふる所は少きも、練習は努めて之を多くせしむることを要す。

一 基本的事項の教授に意を用ひて其の徹底を期し、他の事項は自學に依り自得せしめんことを期すべし。此の種の學校に於て豫備的知識又は先行條件たるべき知識技能の不確實なるは、新教授の進捗を阻害し、延いては全教授の徹底を阻害するに至るべし。深く注意せざるべからず。

一 言語は平易明瞭なるべく、示範は確實一定すべし。同一事項に對する説明示範の多岐多様なるは、要點把握の上より殊に忌むべしとす。

一 直接教授は受教卓に於て又は兒童席につきて行ふを可とす。教壇上に立ち距離を置きて高聲を以てするの要なし。

第十 自習作業

一 自習は直接指導を要せざる事項に對し教師の勞力を省き、之を他の必要なる事項の教授に注がんに爲に課するものにして、此の種の教授に於ては缺くべからざる方法なり。

一 自習は教授上不得已に出づるのみならず、又兒童として自學の精神を惹起せしめ、他日獨立して新知識を收得する方法に熟せしむるの效あるものなり。

一 自習は其の初めに於ては、材料及方法等につき一一指導命令を要すと雖も、漸次兒童各自の意思によりて之を行ふの習慣を育成して時間の空費を避け、之を以て直接教授に

當つるものとす。

一 自習せしむべき材料は各教科目により、又其の教材によりて異なりと雖も、一般的に云へば、自習は豫習、復習、練習の三種に分つべく、又之を單獨にて行ふ場合と共同にて行ふ場合とあるべし。其の方法大凡左の如し。

(イ) 單獨に行ふ場合

觀察、檢索、默考、推敲、訂正、讀書、誦誦、試作、口述、記述、採集等

(ロ) 共同に行ふ場合

對話、問答、質疑、輪讀、批正、共作等

一 自習を課する場合の注意

(イ) 自習は前述の如く、一面教授上の便宜に基きて之を課すと雖も、本來は獨立して知識技能を收得練磨するに熟せしむるにあるが故に兒童をして十分に其の旨趣を體せしめざるべからず。

(ロ) 自習を課するには、其の事項と方法とを確實に指示するを要す。指示の方法には口頭指示と記述指示とあり。

(ハ) 自習は直接教授と密接の連絡を保たしめ、克く其の目的を達せしめざるべからず。

(ニ) 自習は兒童の個性に適し、巧に助長補短の效を擧ぐる

様にし其の材料は能く兒童の學力に合はんことを要す。

(ホ) 自習の時間を巧に直接教授と配合して、其の疲勞倦厭を防ぎ、清新の活氣を保たしめざるべからず。

(ヘ) 教師は常に直接教授の傍、兒童の自習の狀況を監視し、之が指導を怠らざると共に、必ず自習の結果を考査し檢閲し、其の方法の適否と勤怠とを批評し兒童をして漸次自習の方法に熟せしむる様に爲すべし。

第十一 助手兒童

一 助手は高學年兒童又は同學年中の優等兒童を以て之れに當つるものとす。

一 助手の選任法は稍進みたる學年には學科によりて之を定め低學年には日又は週に分ちて當番として定むるを可とす。

尙は助手の選任には、一助手に二三人の兒童を配分し置くものと、斯の如く一定せずして、或は日毎に或は二三日毎に變ずるものとあり。適宜之を採用すべし。

一 助手兒童に對して、其の爲すべき事項及び方法等につき、最初は殊に綿密に指導し、尙ほ日日適當なる機會に於て其の結果につき批評し注意を與へ、漸次自習の補助指導の方法に熟せしめざるべからず。

一 助手兒童のなすべき事項は大略左の如し。

(イ)各學科の豫習、復習、練習の監督指導

(ロ)算術、綴方、書方、書取等の簡易なる訂止檢閲

(ハ)體操の監督又は教授

(ニ)算術問題、模範文、難字句等の記寫板書

(ホ)課業の準備、後始末、教具の整頓

(ヘ)教具の製作又は整頓の助手

(ト)戶外作業の監督指導

(チ)教師の缺勤又は不在の際に於ける自習の監督指導

(リ)出席缺席の調査及計算

一 助手の作業を指導し、或は其の作業の事項を指示するが爲に、助手用カード又は助手帖を作りて、前項記載の事項を記入し使用するも可なり。

第十二 課 事

一 兒童に課すべき課事の種類大略左の如し。

(イ)教室及教具の整頓掃除

(ロ)教具の携出、撤去、收藏、整理

(ハ)校内の整頓掃除

(ニ)運動場の掃除、草取、水撒

(ホ)學校園の入手

(ヘ)掃除用具の整頓、修理、補充

(ト)教具校具等の整頓、修理、補充

(チ)水汲湯沸配茶等の雜務

(リ)郵便物の受授、投函、電話の應接

(ヌ)來校者の應接接待

(ル)傷病者の看護家庭への付添、通知

(ヲ)新聞、雜誌、官府報等の整理

(ワ)出席調査、月末統計調査の手傳

(カ)文書の印刷淨寫

(ヨ)氣象觀測

(タ)備品、消耗品の調査、整理の手傳

(レ)式日祭日の準備、後始末の手傳

一 課事は兒童の能力に適當なるものを以てし、便宜或は一定兒童に一定期間之に當らしめ、或は日毎週毎に順番に當らしむ。

一 教師は兒童と共に事に當り兒童の爲せる所は必ず之を檢閲し、其の方法の適否、遂行に關する努力の多少及其の結果等に就き批評し、將來の注意と奮勵とを鼓舞すべし。

第十三 學校園及實習地

一 學校園及實習地は觀察、實驗の資料を供し、學校に風致

を添へ、併せて兒童に勤勞を好み、自然を愛好する習慣を興へ、延いては著實穩健の氣風を養ふに多大の效果あるものなれば、其の施設經營に十分の注意を要す。

一 學校園、實習地は必ずしも大規模なるを要せざるを以て、校地の餘地等を利用して必ず之を設くべし。

一 學校園及實習地等を利用して、土地の情況に鑑み、兒童をして播種、耕耘、施肥、灌水、除草、移植、整地、病蟲害の豫防及驅除、收穫、挿木、接木、剪定、整枝、養魚、養禽、養蠶、養蜂、觀測等適宜の實習をなさしむべし。

第十四 其他の事項

一 言語は雅馴ならむことを期し、方言矯正に努め、坐作進退すべて素樸實直ならむことを期すべし。

一 兒童の日常使用品は堅實にして用を充たすを旨とし之が購入保存等は最も意を致すべし。

一 兒童身體の鍛練に留意し、各自の體質に應じ、努めて運動をなさしめ、又冷水摩擦、深呼吸等を奨励すべし。

一 校舎は努めて質素を旨とし、建築材料の如きも一朝修繕を要する際、近傍の地にて辨じ得るものたるを可とし、新築するに際しては、將來の發展に伴ひて擴張するに便なる様注意し置くを要す。

一 校具教具の如きも、多級小學校に要するが如きものにあらずして輕便小形なるものにて可なり。即大地圖の代りに

小地圖を用ひ、又大算盤、大黑板の代りに、通常の算盤、小黑板或は稍大なる石板等にて用を辨し得べし。

一 自習用又は教授用として教師自ら掛圖、地圖等を製作するは頗る有益の事なるを以て、後日の用に供せむことを考へ、白墨を用ひずして筆寫するを可とす。

一 謄寫印刷機は利用の範圍廣きものなれば備へ置きて大に之を使用すべし。

一 自習用カードを造り、諸種の課題、模範文、難語句の讀方、解釋及び用例、書取文、附加事項、參考事項等を記入し置き隨時利用すべし。之が製作記入は最初一年は勞を要すと雖も、一旦製作せば幾回も使用に堪へ教授、學習に利すること少からず。

一 机腰掛の如きは質朴堅牢を旨とすべし。

一 備品中には教師兒童の共用具として、必要なる手工用具及び農具を備ふべし。

一 特殊單級小學校に備ふべき表簿類は大略左の如し。

兒童學籍簿、職員履歷書綴、豫算表、職員出勤簿、指示錄、備品臺帳、消耗品臺帳、物品請求簿、公文書綴、兒童出缺席簿、月末統計表、學校一覽表、日誌、教材配當表、毎時教授豫定表等

第一表

單級教授時間割表例

水						火						月						曜
六 (體操、 作業)	五 (體操、 作業)	四 (體操、 作業)	三 修 身	二 修 身	一 修 身	六 算 術	五 算 術	四 算 術	三 算 術	二 算 術	一 算 術	六 修 身、 唱歌	五 修 身、 唱歌	四 修 身、 唱歌	三 修 身、 唱歌	二 修 身、 唱歌	一 修 身、 唱歌	年 學
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時
																		分
																		至
																		時

考 備	土					金					木							
	六 修 身 、 唱 歌	五 修 身 、 唱 歌	四 修 身 、 唱 歌	三 修 身 、 唱 歌	二 修 身 、 唱 歌	一 修 身 、 唱 歌	六 算 術	五 算 術	四 算 術	三 算 術	二 算 術	一 算 術	六 修 身	五 修 身	四 修 身	三 (體 操、 作 業)	二 (體 操、 作 業)	一 (體 操、 作 業)
<p>表中へを施せる部分は同時同科目同教材なれども唱歌體操に於ては同時同科目異教材の場合もあり。()を施せる部分は自習にして(算術、讀方)は自習としての算術、讀方(體操、作業は)自習としての體操、作業なり。圖畫、手工、綴方は同時同科目同教材の場合もあり。地理(地)又は歴史(歴)は前半時は教授、後半時は自習す。</p>	圖畫、手工	圖畫、手工	算術	算術	算術	算術	書方	書方	書方	讀方	讀方	讀方	算術	算術	算術	算術	算術	
	綴方	綴方	綴方	讀方	讀方	讀方	(算術、讀方)	(算術、讀方)	讀方	書方	書方	書方	圖畫、手工	圖畫、手工	圖畫、手工	讀方	讀方	
	讀方	讀方	讀方	綴書方(週隔)	綴書方(週隔)	綴書方(週隔)	體操	體操	體操	體操	體操	體操	讀方	讀方	讀方	圖畫、手工	圖畫、手工	圖畫、手工
	地理	地理	(算術、讀方)	(算術、讀方)			理科	理科	裁縫	裁縫			地理(地)	地理(地)	綴書方(週隔)	綴書方(週隔)		
							裁縫	裁縫					裁縫	裁縫				

第四表

大正四年三月二日月曜第四時教授豫定表 (第三表記載例其の一)

法	教	教材	要項		學科
			年	年	年
(直)巡視成績批判	(自)練習	(直)示範	手三、三四本	書方(一)	書方(一)
	(自)練習	(直)示範	手三、三四下	書方(二)	書方(二)
	(自)練習	(直)示範	手三、三四下	書方(三)	書方(三)
全課の朗讀、解釋及話方、應用文讀解	(自)練習應用	(直)自習結果の檢察、整理	虎と猫 卷八第二十一練 習總括	讀方(四)	讀方(四)
(自)練習應用	(直)自習結果の檢察、整理	個人及相互間の作業檢察指導	あいぬの風俗 卷一第十二課 習總括	讀方(五)	讀方(五)
(直)精査、整理	(自)練習	(直)自習結果の檢察、補成	大國民の品格 卷十二第二十四課 新教授	讀方(六)	讀方(六)

備考 本例は單に使用の様式を示したるものにして第一、二、三學年の書方の如く普通の形式に依れるものは特殊の場合の外は記入せざるも可なり。

第五表

大正四年三月四日日本曜第一時教授豫定表 (同上其の二)

法	教	教材	學科	
			要	原
(直)檢答(全部)	(自)課題(口唱) (自)課題(板書)	倍すること	算術 (一)	算術 (一)
(直)檢答(全部)	(直)檢答(部分)	(直)共通暗算(暗算の二方面を板書及口唱によりて百以下の加減法基本的練習)	算術 (二)	算術 (二)
(自)檢答(全部) 相 五	(自)課題(教科書)	筆算の除法其五	算術 (三)	算術 (三)
(自)檢答(全部) 相 五	(自)課題(教科書)	小數の加減乗除	算術 (四)	算術 (四)
(自)檢答(全部) 相 五	(自)課題(教科書) (直)豫習結果の檢察及補成	グラム	算術 (五)	算術 (五)
(自)檢答(全部) 相 五	(自)課題(教科書)	復習(分數)	算術 (六)	算術 (六)
	(直)算法解決			

第六表

大正四年三月十二日木曜第五時教授豫定表 (同上其の三)

法		教		教具	教材	要 項	學 年
(直)巡視批判(發表の間に)		(直)巡視指導(復演の間に)		(自)準備練習	三手本 三三下 三四	書方(三)	
					三手本 三三下 三四	書方(四)	
	(直)整理、結果反省批判	(直)豫習結果の檢察、教授豫習	(自)豫習	(直)豫備的復習、目的決定	世界全圖、歐羅巴洲地圖、亞弗利加洲地圖、スエズ運河附近擴大圖、スエズ運河の寫眞繪畫	地理	(五六)
(イ)教科書講讀(本文及地圖を學習事項との對照)、(ロ)學習事項の問答整理(ハ)我國との關係(ニ)亞弗利加洲の文化發達せざる所以	(イ)伊太利(要項省略、以下同様)、(ロ)復演、(ニ)瑞西、白耳義、和蘭、(ホ)復演、(ヘ)亞弗利加洲の概説(ト)エジプト其他(チ)復演	(イ)世界の六大洲中已に學習せる洲、(ロ)歐羅巴洲中已に學習せる諸國、(ハ)夫等の諸の特長及我國との關係、(ニ)目的決定及豫習事項の指示			歐羅巴洲(伊太利、瑞西)亞弗利加洲(エジプト其他)尋地卷二第十五世界三五七の三 白耳義、和蘭		